月報　第494号　東京バッハ合唱団　2003年8月
〒156-0055 東京都世田谷区船橋5-17-21-101　Tel:03-3290-5731　Fax:03-3290-5732
E-mail:bachchortokyo@aol.com　http://www2.tky.3Web.ne.jp/~bach/chor/

団員を増やす努力を

－2003年度団員総会 報告－

片岡 京子、菅原 昌子（団員）

去る7月5日､桜新町の世田谷中央教会において、2003年度団員総会が開かれました。今まで月曜日にもたれていたものを、今年は懇親会の前にということで、土曜日の通常の練習時間に行われましたが、おかげさまで、大村先生を含めて23名の参加がありました。ソプラノの担当でしたので､片岡が進行を、菅原（昌）が記録を務めました。

活動報告の中では、定期演奏会で演奏するカンタータの多くがＣＤになっていくこと、昨年40周年を記念して出版された｢東京バッハ合唱団40年の記録｣が、初めて団員の手でつくられ、またその中に入っている40年の史実は貴重であること（演奏会係：Ｂ加藤）が、特筆すべきこととして挙げられます。

会計報告は総会の中でももっとも重要な案件で、意見も活発に述べられました。会計は1）後援会会計（大村先生）、2）演奏会会計（Ｓ荒井）、3）経常会計（Ａ山下、Ａ高野）に分けられていますが、共通していることは、どれも厳しい状況にあることです。節約、バザーによる努力の上に、団員数を増やす努力が不可欠とおもわれます。それについては後でさらに討論することにし、笠原氏の監査を受けた収支報告と予算案を承認しました。

新年度の各係の担当者は次のように決まりました。
パートリーダー：Ｓ菅原（昌）、片岡、Ａ三上、中山、Ｔ島津、Ｂ室田、片岡
演奏会：Ｓ荒井、Ａ田中、Ｂ加藤、Ｂ山下、Ｂ松尾、Ｂ室田
会計：Ａ高野、Ａ山下
企画：Ｂ片岡、Ｂ戸川
メディア：（テープ係から改称）Ｓ宮田、Ａ小野、Ｂ松尾、Ｂ片岡
楽譜：Ｓ菅原（文）、Ａ山﨑
月報：Ｔ大村
資料：Ｔ大村、Ｂ松尾
名簿：Ｓ片岡
広報：Ｂ山下、Ｂ松尾（ホームペイジ）、Ｓ川合
合宿：アルト

今年度の活動予定（合宿の予算案を含む）の報告の後、いくつかの相談事項について話し合いがもたれました。まず、昨年の総会の申し合わせを受け、定期演奏会の演奏曲目の構成に関し、カンタータ 4曲、モテット 1曲でよいかどうか討議しました。そもそもこの構成だと、新しい団員にとっては大変な練習量で、こなしきれないのではないかという不安があったわけですが、「プログラム構成上、モテットはプラス」、「カンタータはＣＤ制作上けずれない」、「新しい曲の導入を早くする工夫」など賛成意見多数で、予定どおりの曲目ですすめることになりました。団員を増やす工夫については、友人、知人を誘うほか､区報､市報等無料の掲示板を利用すること、e-mailを持っている人は、東京バッハ合唱団のホームページのアドレスをメールに付けて送るといった意見が出されました。

以上が総会の大体の報告ですが、さらに詳しいことをお知りになりたい方は、それぞれの係、またはＳ片岡までお問いあわせください。

創立41周年の記念懇親会

平田 輝子（団員）

東京バッハ合唱団創立41周年記念懇親会は、7月5日（土）、渋谷駅のすぐ目の前、東急プラザ9階ロシア料理「ロゴスキー」にて行なわれました。

それに先立ち、３時半から世田谷中央教会で行なわれた団員総会では活発な議論が行なわれ、教会を出たのが6時近くになってしまいました。そのため現地に集合するのが若干遅れたものの､6時半の定刻を10分過ぎただけで懇親会は加藤さんの司会進行で始まりました。

まず去年入団したばかりの戸川武志さん（バス）の乾杯の音頭、大村先生のご挨拶とお客様のご紹介がありました。

今回の懇親会に出席していただいたお客様は、後援会員でいらっしゃいます青木道彦様、小杉茂雄様、桜井征夫様、中澤冨士子様、安原美世子様、山本栄子様、加藤さんの丸善㈱勤務時代のご友人でＣＤを全曲予約してくださった持田勝様、いつも定演に来てくださる古野晴子様（この日、後援会にご入会）、そして柳沢さんのご遺志を受け継ぎ，東京バッハ合唱団の演奏会録音を担当してくださっている竹内惠様、以上９名。

合唱団からは大村先生ご夫妻、（ソプラノ）片岡京子、菅原文子、菅原昌子、中西碧、細川芙美江、（アルト）三上裕子、中山ルミ子、遠山香苗、平田輝子、（テノール）島津欣矢、（バス）戸川武志、加藤剛男、以上 14 名、総勢 23 名の賑やかな会になりました。

お客さま紹介のあとは大村健二さんから今日のプレゼントとして「東京バッハ合唱団演奏曲目一覧 1962-2003」という大変貴重な資料が全員に配られました。まだ作業途中とのこと、大変なご苦労が忍ばれます。

にしんのマリネやスモークサーモンが彩り良く並べられた前菜のお皿がテーブルに配られる頃、お客様ひとりひとりから大変心のこもった暖かいお祝いのお言葉を頂戴いたしました。

皆様一様にバッハの音楽の素晴らしさ、またそのバッハの音楽をさらに我々の身近に感じさせてくれる大村先生の日本語訳の素晴らしさを称え、こつこつと地道な作業を 40 年以上続けてこられ、またこれからも続けていかれる大村先生のパワーに賞賛の言葉が贈られました。ちなみに「８月中には全 200 曲の日本語訳が完了しそうです」という、うれしい大村先生のお言葉がありました。

ロシア名物、ピロシキ、ボルシチ、シベリア風水餃子と次から次へと食べられないほどのお料理が出て、しばしの間それぞれ楽しく歓談いたしました。練習場ではなかなかゆっくりお話しする機会もなく、また久しぶりにお会いする方もいらして、団員同士のお喋りもはずみました。

お腹もいっぱいになりかけた頃、団員を代表して菅原文子さん、中西さん、細川さん、片岡さん、遠山さんがそれぞれお話をし、その後団員全員もお客様に対し、一言ずつ自己紹介をいたしました。

自称「素人音楽マネージャー」とおっしゃるお客様の安原様より 10 月 3 日に東京カテドラルにて行なわれる「ロ短調ミサ曲」のチケット 10 枚の寄贈を受けました。さっそくその場で来賓や団員の方々にお買い上げいただき、その収益は後援会会計に入れさせていただきました。本当にありがとうございました。

渋谷の夜景もすっかりきれいになった頃、ジャムの入ったロシアティーが運ばれて楽しい懇親会もあっという間に終了いたしました。出席された皆様お疲れ様でした。

久しぶりに通った夜の渋谷駅前は、すっかり若者のパフォーマンスの場と化していました。

上●「ペリカン・ポートレート」Nicholas Hilliard, 1574.
下●同部分

ペリカンの神秘

大村 恵美子

事の起こりは、こうです。6月11日のニューズウィーク日本版に、「女王陛下、400年後の真実」という記事があり、ロンドンで開催中（9月14日まで）のエリザベス展を紹介している中で、「通称『ペリカン・ポートレート』の胸には、ペリカンをあしらった宝石が輝いている」という解説の写真が掲載されているのですが、よく見てもペリカンらしき姿は見つかりません。

そこで、2000年に『エリザベス1世』（講談社現代新書）をお書きになった、後援会員の青木道彦氏にお伺いしてみたのです。すると、7月5日の記念懇親会に、わざわざ図版入りの分厚い原書を2冊もお持ちくださって、そこで、ニューズウィークの写真が間違っていたことがわかりました。ここに載せさせていただいたのが、「ペリカン・ポートレート」と呼ばれる肖像画なので、これならば、はっきりと中央の大きなペリカンのペンダントを認めることができます。

ペリカンは、自分の胸をつついて、その血を子に与えて育てると言われているそうですが、エリザベスは、国民のために自分を献げる決意を、これで象徴させたものでしょう。

また、やはり後援会員の白木博也様が、たまたま来宅なさった折に、この2冊をお見せしたところ、ペリカンが鮮明に描き出されているファン・アイクの絵があるとのことで、これもわざわざ、画集をお届けくださいました。

先日「WATARIDORI」という映画を観たとき、ペリカンも渡り鳥の一種であることを知り、おどろきました。この地球に、無限の神秘が秘められていることに感動する映画でもあり、ペリカンは、これまで私の中では、いささか漫画っぽく陽気な存在という印象だったのですが、エリザベスと結びついて、俄然、神秘な存在に格上げされてしまったようです。

上●ファン・アイク兄弟「子羊礼賛」よりキリストの像（ゲント、サン・バヴォン寺院祭壇画（15C）．左下●同部分．

それにしても、エリザベスは大変な人物・政治家だったと思います。ここいらで、日本にも、わが血を与えて民を育てるような指導者が現れないものでしょうか。

全曲訳詞作業の副産物の１曲
野尻湖合宿のミニコンサートへ

大村 恵美子

野尻湖では、ときどき公式なコンサートには乗ったことのない、合宿にふさわしいバッハその他の曲を訳して、内輪のミニコンサートで合唱をしてもらうことがあります。（クリスマス会のときにも、「マグダレーナ・バッハの音楽手帖」から、軽妙な歌を、口語で歌ったりもしています。）

7月15日現在、名残惜しくも、あと約10曲を残すのみとなった、教会カンタータ全曲（193曲。偽作とされたもの、断片等を除く）の訳詞作業では、短期間に集中して行なったために、一望のもとに多くの有益な発見があいつぎました。今後は時間をかけて、しっかりと完成させる見通しがつきました。

さて、その合間に、この８月の合宿のために、私

の目に飛び込んできたのが、BWV149「喜びの勝ち歌は 幕屋に満てり」の第６曲、アルト・テノールの二重唱です。

1728/29 年初演、ミカエル祭のためのカンタータで、私たちには 1998 年の定演で、同じミカエル祭のためのカンタータ BWV19「戦い かくて起これり」（1726 年初演）を歌った鮮明な記憶があります。この日の福音書章句「幼な子のようにならなければ天国に入れない」という、子ども向けの趣向として、天使ミカエルとドラゴンとの戦いが描かれます。BWV19 でも、天使は各所に姿を現し、第 5 曲のテノール・アリアでは、シチリアーナのリズムに乗って、リリックなテノールで天使への呼びかけが、連綿と歌われました。

とどまれ かたえに
天使よ わがかたえに
ささえ 導け われを
わが足の すべり行かぬため
なれらの きよき ほめ歌 教え
感謝を 主に 献げしめよ

こんどの BWV149（第 6 曲）では、さらに子ども向けになって、ファゴットのリズミカルなオブリガートで、明るく活発な二重唱となりました。

目覚めよ きよき 見張り
夜明け 近し
われ 焦がれ まどろみ得ず
わが父の顔 仰ぐ 日まで

テノール部分にソプラノ、アルト部分にバスを加えて、みんなで２部合唱にしようと思います。

天使というのは、子ども心のたよりなさ、この世の闇の恐怖を鎮めてくれるもので、とくに旅先とか合宿などに、ふさわしく有効な想像力の産物に思えます。BWV149 全曲を、完全な形で上演する機会が、将来訪れるかどうかはわかりませんが、少なくとも一夏のさわやかな思い出の１曲として、皆さんの心に残ることを願っています。訳詞つき楽譜をご希望の方は、どうぞ合唱団にまでお申込みください。

また、鬼が笑う話になりますが、先月号の月報でふれたように、アルトの佐々木まり子様からのご依頼で、アルトのソロ・カンタータ３曲を訳し、その折に思いついて、佐々木様のご出演の承諾もすでにいただいて、来年 2004 年の野尻湖・神山教会演奏会では、

BWV169「神にのみ わが心献げん」
BWV170「うれしき心の平和」

を、プログラムに取り入れることが決まりました。佐々木まり子様には、ゆっくりと発声も学ばせていただきたいとの、かねてからの私たちの希望も一緒に叶いそうで、今からわくわくしています。

今年も、来年も、よい夏でありますように。

後援会 会計報告 （2003 年上半期）

2003 年 1 月～3 月

	内 訳	（単 位・円）
収 入		236,100
後 援 会 費	178,000	
寄 付 金	58,100	
支 出		399,230
事 務 局 費 補 助	210,000	
渉 外 費	0	
通 信 費	116,624	
事 務 費	72,606	
雑 費	0	
差 引		-163,130
前 期 よ り		-464,739
累 計		-627,869

【継続会員】（敬称略、以下同様） 植田高弘, 谷沢守, 大切幸一, 大滝政昭, 松尾正子, 森彬, 安藤真保, 宇佐見邦輔, 砂川治子, 宮島信子, 本田節子, 小杉茂雄, 清田礼子, 阿部啓, 森永毅彦
【寄付】山崎千秀子, 石毛扶貴子, 植田高弘, 三ツ木篤子, 増沢喜千郎, 片岡京子･武彦, 中村妙子, 宮島信子, バザー売上
【切手多数】声の奉仕会マリア文庫

2003 年 4 月～6 月

	内 訳	（単 位・円）
収 入		361,000
後 援 会 費	336,000	
寄 付 金	25,000	
支 出		327,102
事 務 局 費 補 助	210,000	
渉 外 費	23,000	
通 信 費	74,926	
事 務 費	19,176	
雑 費	0	
差 引		33,898
前 期 よ り		-627,869
累 計		-593,971

【継続会員】（敬称略、以下同様） 荻野真喜子, 宮田親平, 酒井暁子, 佐川行子, 青木道彦, 中澤冨士子, 勝沼淳, 渡辺さち子, 石田美保子, 野村勝時, 山本恵子, 丹羽茂, 柳沢千鶴子, 森泉百合子, 斎藤繁儀, 長井しのぶ, 星野弥生, 吉村路子, 鈴木玲子, 宮崎恭子, 福中脩, 荒井せつ子, 岩瀬房子, 渡辺美恵子, 出口禎子, 内田美枝子, ・ 芳人
【新入会員】村田千恵子, 林宏幸
【寄付】秩父良子, 森野善右衛門, 藤田玲子, 瀬底恵子, 斎藤繁儀